

平成28年度第1回 会下山遺跡整備・活用検討委員会 会議録

日 時	平成29年1月17日(月) 15:00～17:00
場 所	芦屋市役所北館4階教育委員会室
出席者	委員長 安部 みき子 副委員長 藤川 祐作 委員 江守 易世 委員 仲谷 由利子 委員 星野 剛一 委員 野間 靖雅 委員 船曳 純子 (欠席委員) 委員 花尾 廣隆 (事務局) 教育長 福岡 憲助 社会教育部長 川原 智夏 生涯学習課長 長岡 一美 生涯学習課文化財係長 竹村 忠洋 生涯学習課文化財係学芸員 森岡 秀人 生涯学習課文化財係学芸員 森山 由香里
事務局	生涯学習課
会議の公開	■ 公開
傍聴者数	0 人

1. 会議次第

- (1) 教育長あいさつ
- (2) 任命状交付
- (3) 審議事項
 - ①会下山遺跡発掘60周年・国指定史跡5周年記念事業の実施状況について(報告)
 - ②観光・商業との連携について
 - ③その他

2. 提出資料

- ・資料1 ー 平成28年度下山遺跡発掘60周年・国指定史跡5周年記念事業一覧
- ・資料2 ー 記念事業記録写真
- ・資料3 ー 会下山遺跡シンポジウム参加者アンケート結果
- ・資料4 ー 会下山遺跡パンフレット配架状況
- ・資料5 ー 「えげのやま博士」認定証

3. 審議経過

【議題①】 会下山遺跡発掘60周年・国指定史跡5周年記念事業の実施状況について

(安部委員長)

それでは、議題①について、説明をお願いします。

(事務局：竹村)

まず、平成28年度にJ：COMの芦屋市広報番組「あしやトライアングル」で放映された番組を2本ご覧いただきます。

《DVD鑑賞》

・あしやトライアングル 平成28年8月（後半）

トピックス「会下山遺跡関連展示会・弥生時代の芦屋」

・あしやトライアングル 平成28年10月（後半）

特集「会下山遺跡の謎に迫る～発掘調査60周年・国史跡指定5周年～」

(事務局：竹村)

次に、今年度を実施した会下山遺跡発掘60周年・国指定史跡5周年記念事業について、事務局：森岡・森山よりご説明します。

(事務局：森岡)

会下山遺跡シンポジウム資料集・同チラシ等に基づき、記念シンポジウム「会下山遺跡と高地性集落の謎—なぜ人々は山の上に住んだのか」について説明。(参考資料：広報あしや1月15日号)

(事務局：森山)

資料1～3に基づき、記念シンポジウムアンケート及びその他の事業について説明。

(参考資料：各事業チラシ等・「えげのやま博士」認定証)

(江守委員)

「えげのやま博士」の認定書について、名前を入れるなど、工夫の余地があると思う。

(星野委員)

これまでよりもずいぶん広報の工夫がされていることから、参加人数の底上げにつながっていると思う。一方で来年度以降も、さらなる広報の工夫ができると思うが具体的な手法は考えているか。小学校や子ども会、コミュニティ・スクールなどのつながりを強化する等もできるのではないか。また、広報ではどうしても情報が細切れになるので、年間や半年単位でイベント計画を告知してみてもどうか。

今年度は美術博物館とのコラボができなかったことが残念である。

来年度の事業については、今年度事業の展開も含め、何か具体的な計画はあるか。

(事務局：竹村)

広報関係については今後、SNSによる広報を検討したいと考えています。

また、これまでの事業ではアンケートを実施していなかったが、今年度は実施してい

ます。今後もアンケートを有効活用して、参加者が事業をどのようにして知り得たか等を分析したいです。

今年度実施した事業ははじめて実施したものがほとんどです。来年度事業について、三条文化財整理事務所での展示は引き続き広報をして実施する予定です。また、「えげのやま博士になろう」のような、子どもの夏休みの課題としてできるような事業も続けたいと考えています。

(仲谷委員)

芦屋市の南部に住む市民にとっては、会下山遺跡や三条文化財整理事務所へはなかなか行けない。図書館のホールなどで、会下山遺跡の紹介などをできないか。

また「えげのやま博士」のような子ども対象事業を広げて、同様のことを大人対象でもできるのではないか。

(事務局：竹村)

芦屋の歴史を学ぼう会で、北は三条文化財整理事務所を、南は図書館・美術博物館・谷崎潤一郎記念館で構成される「文化ゾーン」を核にできると考えている。後者については美術博物館協議会があるが、連携も考えていきたい。

(仲谷委員)

資料4について、会下山遺跡の登山口にパンフレットを設置したことは良いと思う。加えて三条文化財整理事務所についての案内も設置できれば、周知にもつながると思う。

(事務局：竹村)

資料4にあるパンフレット入れは、平成28年12月19日に設置した。多い時には1日に30枚なくなっていることもある。

(藤川副委員長)

パンフレットケースは市内の他の遺跡でも利用できると思う。

学校とのかかわりという点で、山手中学校の校史などに会下山遺跡に関する記述があれば、子どもたちの関心も広がるのではないか。

(仲谷委員)

会下山遺跡の現地見学会の際、山頂で、土笛（オカリナなど）を利用した演奏会などがあれば、関心が高くなるのではないか。

(江守委員)

子どもを対象にした事業を夏休みに行う場合、終業式以前に学校に案内を配布するなど、広報を目にする機会の少ない子どもたちの目に触れることも必要だと思う。

(野間委員)

展示会「弥生時代の芦屋」について、市外の子どもたちが訪れていることに驚いた。PRができていると思う。

学校教育の場では、「わたしたちの芦屋」に会下山遺跡のことは少しだけ載っているが、

授業時間等の関係で郷土史を扱う枠はほとんど取れない。夏休み等に郷土の文化財を学ぶイベントを実施してもらえると、学校としてもありがたい。

ただ、打出方面や市内南部に住む子どもたちにとっては会下山遺跡や三条文化財整理事務所はバスを使っても遠いので、参加を呼び掛けるには工夫が必要だと感じる。

「えげのやま博士」の認定証について、このような特典を作ると子どもたちはすごく喜ぶので、良い試みだと思う。デザインなど工夫して、継続してほしい。

【議題②】 観光・商業との連携について

(安部委員長)

議題②について、ご説明をお願いします。

(事務局：竹村)

会下山遺跡を、これまで学習の場としては積極的に活用していると思うが、観光・商業との連携は積極的には行えていません。このことについては前回、藤川副委員長からもご指摘いただきました。芦屋市としては芦屋市創生総合戦略にあるとおり、会下山遺跡を芦屋市の魅力のひとつとして位置付けており、今後観光・商業との連携にも取り組む必要を感じています。

現在、生涯学習課で把握している連携は自主的なハイキングであり、ハイキングコースとして会下山遺跡に多くの人びとが訪れています。このほか、芦屋市観光協会も年数回の見学会を開催しています。

(船曳委員)

芦屋市観光協会からは、観光ボランティアの案内で会下山遺跡周辺を回るコースも含め年1～2回のツアーを開催している。このほか、芦屋市創生総合戦略の事業の一環として、アプリ版と紙版の市内観光コースを作成しており、会下山遺跡を回るコースも入れる予定である。

商業の連携というところでは、阪急芦屋川駅から山手サンモール商店街を通るルートや、ヨドコウ迎賓館・滴翠美術館など、会下山遺跡の最寄駅である阪急芦屋川駅から会下山遺跡まで、間にあるさまざまな施設等を結ぶハイキングコースを提示できればと考えている。ただ、会下山遺跡に行くには住宅街を通る必要があるため、騒音やごみ問題など、登山者のマナーの問題がある。また、道幅が狭く死角も多いので、登山者の事故など、観光担当課としては不安な要素も多い。また、観光担当課としては「今まで来たことがないが興味がある」人びとをターゲットにしたい。来られる際には地域の歴史なども合わせて知ってほしいので、総合的な案内ができる人間が必要となる。講座のようなものと組み合わせたコースが常にあればよいと考えている。外部から経済課への、そういった案内の依頼も多い。

整備の面では、遺跡周辺のナラ枯れが深刻で、これを放置すると土砂災害などの原因

となるため危険である。まずは環境整備からはじめなければならない。

(星野委員)

会下山遺跡は、今の若い子たちにも興味を持ってもらえる資源として使えるのか。

(船曳委員)

大学などで話を聞くと、10人に1人は興味のある学生がいるようだが、会下山遺跡には来ない。これは、会下山遺跡について知らないことが原因であり、知っていれば来てくれるのではないかと考えている。

(安部委員長)

最近は、「古墳女子」のような「〇〇女子」が流行しているので、ターゲットを絞るのは良いと思う。

《閉会》